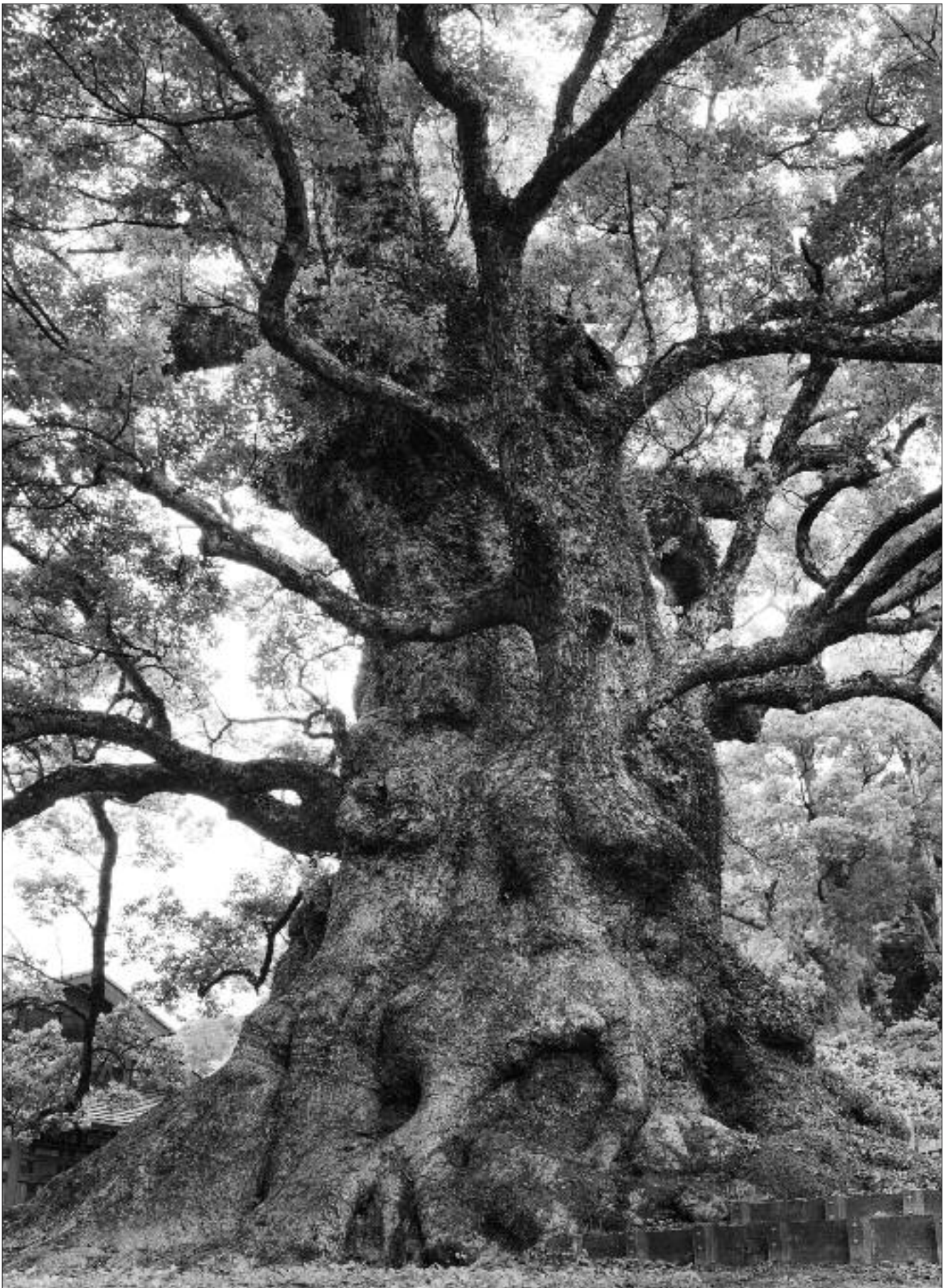


評価	巨木名称	幹 周	樹高	所 在 地	天然記念物 指定
B	蔵王神社のクスノキ 写真 K-120	9.3m	18m	徳島県徳島市南島田町	なし
B	川上神社のクスノキ 写真 K-121	9.3m	25m	佐賀県唐津市浜玉町平原	なし
B	春徳寺の大クス 写真 K-122	9.3m	17m	長崎県長崎市夫婦川町	なし
B	須佐神社の大樟 写真 K-123	9.2m	30m	福岡県豊前市下河内	県
B	光岡八幡宮の大樟 写真 K-124	9.2m	29m	福岡県宗像市光岡字辻園	県
B	生田森 写真 K-125	9.2m	30m	福岡県糟屋郡篠栗町尾仲	町
B	春日神社のクス 写真 K-126	9.1m	15m	静岡県田方郡函南町大竹	県
B	白鷺のクス 写真 K-127	9.0m	16m	福岡県大川市酒見	県
B	恵蘇八幡宮の大樟 写真 K-128	9.0m	32m	福岡県朝倉市山田字恵蘇宿	県
B	白角折神社の樟 写真 K-129	9.0m	23m	佐賀県神埼市神埼町城原	県
B	小木阿蘇神社の楠 写真 K-130	9.0m	26m	熊本県熊本市南区城南町藤山	市
B	八王子神社の御旅所の楠 写真 K-131	11.0m	25m	大阪府大阪市東城区大今里	市
B	大汝牟遲神社のクス 写真 K-132	11.15m	22m	鹿児島県日置郡吹上町中原東宮内	なし
B	明神の楠 写真 K-133	11.8m	18m	神奈川県足柄下郡湯河原町土肥6丁目	なし
B	三島神社の夫婦クス 写真 K-134	8.1m 5.9m	30m	静岡県賀茂郡南伊豆町加納	県
B	郷島浅間神社の大クス 写真 K-135	13.0m	20m	静岡県静岡市葵区郷島	市
B	百舌鳥のクス 写真 K-136	10.1m	13m	大阪府堺市北区中百舌鳥町4丁目535	府
B	住吉大社の千年楠 写真 K-137	9.8m	18.5m	大阪府大阪市住吉区住吉町	市
B	松尾寺のクス 写真 K-138	9.36m	30m	大阪府和泉市松尾寺町	府
B	楠神社のクスノキ 写真 K-139	9.81m	32m	広島県竹原市忠海町長浜	県
B	五所八幡宮のクス 写真 K-140	M9.88m(1.3m 2009)	25m	福岡県古賀市青柳 1687	なし
C	別宮八幡神社のクスノキ 写真 K-141	8.9m	20m	徳島県徳島市応神町中原	市
C	平安の大楠 写真 K-142	8.7m	10m	静岡県伊豆市土肥	なし
C	大門坂のクスノキ 写真 K-143	8.6m	30m	和歌山県東牟婁郡那智勝浦町那智山	県
C	熊野神社の大クスノキ 写真 K-144	8.5m	45m	静岡県島田市牛尾	市

評価	巨木名称	幹周	樹高	所在地	天然記念物 指定
C	水神社の大クス 写真 K-145	8.5m	24m	福岡県豊前市畑	市
C	雲龍神社のクスノキ 写真 K-146	10.2m	不明	愛知県名古屋市中区松原1 松原緑地公園	なし
C	法楽寺のクス 写真 K-147	8.0m	26m	大阪府大阪市東住吉区山坂町 1-18-30	府
C	松森の大樟 写真 K-148	8.5m	25m	長崎県長崎市上西山町	市
C	神崎の大クス 写真 K-149	株周 M11.2m(1.3m 2015)	20m	千葉県香取郡神崎町神崎本宿	国
C	御津神社のクスノキ 写真 K-150	9.2m	18m	愛知県豊川市御津町広石祓田	町
	古墳時代のクス 写真 K-151	12.0m	不明	和歌山県和歌山市岩瀬 1411 紀伊風土記の丘資料館	



写真 K-001 日本一のクスノキ <sup>かもろ</sup>蒲生のクス



樹形が素晴らしい。まるで大地をつかむように幹が地表面で大きく広がる。前頁の樹形で判るように、地上1.3m地点は、根とも幹とも判断できない平たい部分に巻尺を回す事となり、数字が極端に大きくなる。このクスノキの場合、実感される大きさを表現するのは、地上2.5m辺りである。

地上7~8mで4~5本の大枝が出て、地上15mで主幹が4分岐する。その内本殿側の幹が破損。幹表面には着生植物が多い。主幹内部は巨大な空洞で、現在は内部を倉庫代わりに利用している。

前頁・西側から・撮影1990年

上写真・南側から・撮影2009年

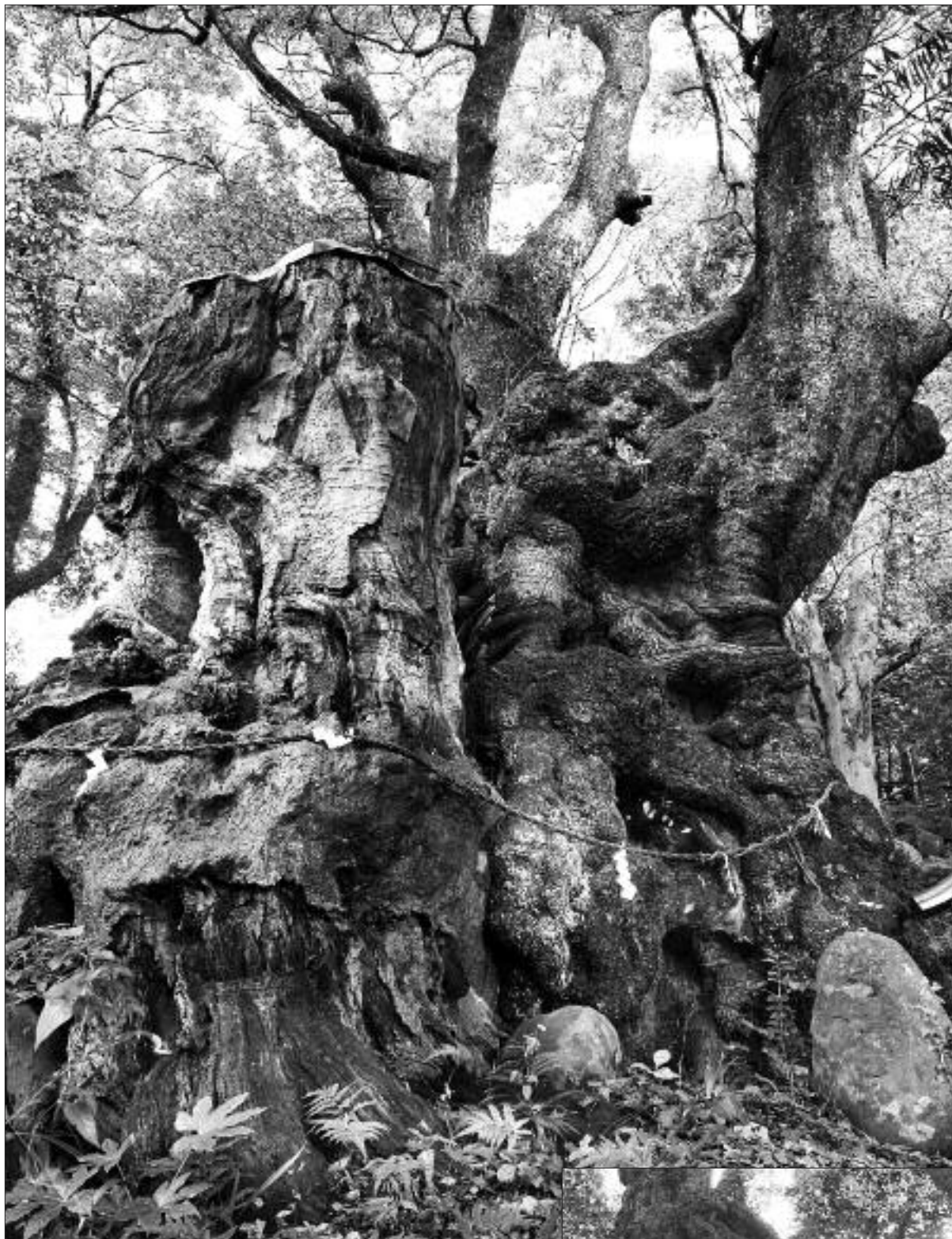


写真 K-012 樹齢日本一のクスノキ

きのみや  
来宮神社の大クス

天然記念物指定名称は「阿豆佐和気神社の大クス」である。推定樹齢2000年とされ、樹齢日本一のクスノキだ。根元近くで2分岐する樹形で、南北両幹が融合するように立上っていたが、南幹は1974年の台風で折れ枯死し、北幹は健在である。樹木と言うより巨巖という印象で、根元に立つとパワーを感じ、一周すると寿命が一年延びるとされるのも納得する。巨木DB幹周23.9mは南北両幹の合計周か、根元周囲かは不明である。





写真 K-003

ゆすはら  
柞原八幡宮のクス

境内石段の左手斜面に立つクスノキの巨木で、根元が大きく広がり、内部は空洞化、近所の子供達の遊び場になっていたという。根元が広がるとはいえ、堂々たる単幹樹で、上部で2分岐していたが一本が破損。それでも、見事な樹形をしている。

日本三大クスは「蒲生のクス」「来宮神社の大クス」「川古のクス」ということだが、川古のクスは大きく根元が広がったために幹周値が大きくなったもので、このクスの方が巨大感があり、日本三大クスに選定しても遜色ないため、本書ではAA評価とした。

巨大な事と、前景前には引きがないことから、撮影困難な巨木の一つ。作品はパノラマ撮影による。

写真 K-005▶

ふじさきだい  
藤崎台のクス

旧藤崎八幡宮跡地に7本のクスノキの巨木が残され、その最大株。県立野球場裏にある。このクスノキも根元が大きく広がっている。測定時の画像を見ると、やはり広がった部分を測定しているため、大きな数字が出ている。実感される大きさは地上2m辺りであろうか。(写真 Web 画像)



写真 K-004▶  
たけお  
武雄の大クス

武雄神社の裏を進むと広場の正面に鎮座している。武雄神社の御神木。主幹根元が大きく広がり、内部は空洞化し、12畳程の空間があり、そこに天神様が祀られている。全国でも例を見ない宗教施設であろう。



写真 K-007  
きぬかけ もり  
衣掛の森

「湯蓋の森」とともに、宇美八幡宮の境内にある。古株と新株が根元で融合する樹形。古株はほぼ枯れ、根元が膨らんで空洞化している。主幹は波打ち、樹齢の古さを物語る。



▼右が古株で、左が新株。根元で融合している。





▲写真 K-006  
かくれがのもり  
隠家森

大幹2本は切断されているものの、根元広がり、樹形ではなく、幹周がほぼそのまま反映されている珍しいクスノキの巨木だ。近くにあった朝倉関を通れない旅人が、夜まで隠れていたという森があったが、現在はこのクスノキ一本になったという。そのため、森の名前をこのクスノキが受継ぐ事となった。地区会館前の広場に立ち、子供達の遊び場になっている。

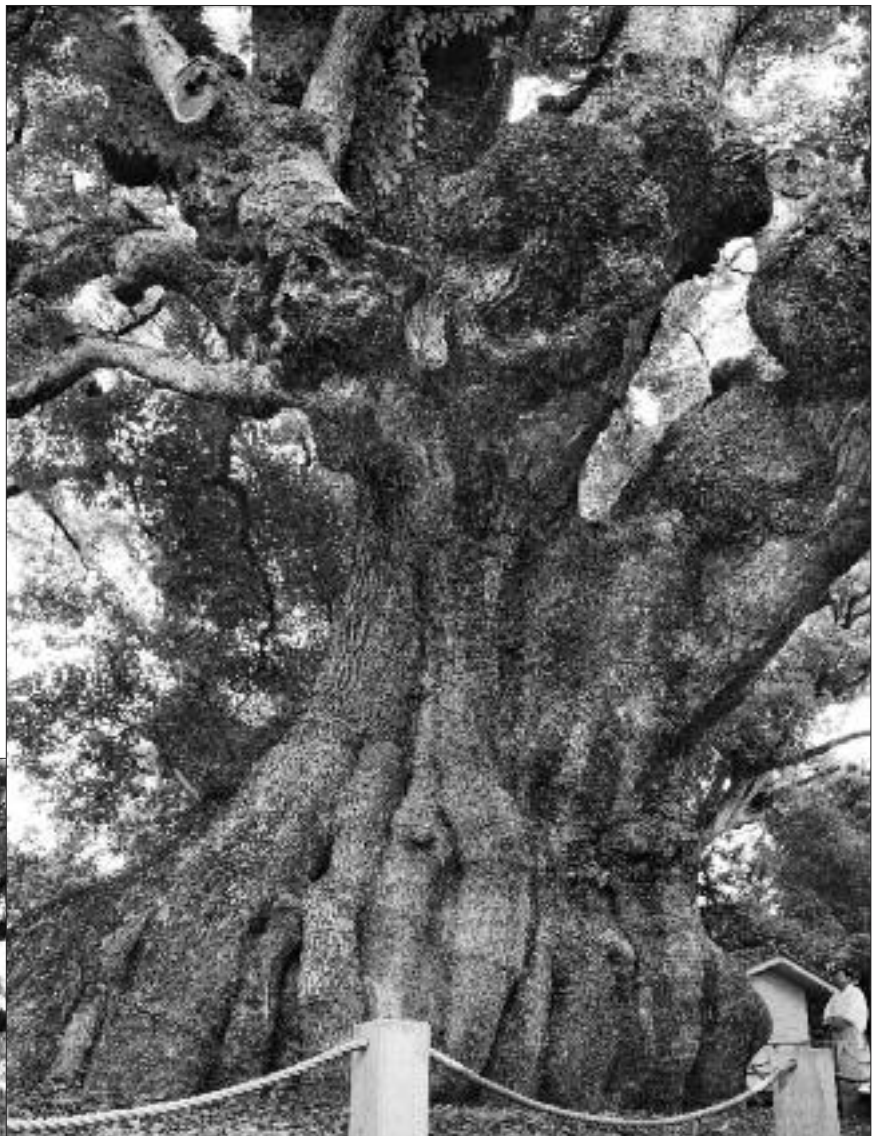
▼写真 K-008  
おおたに  
大谷のクス

大谷漁港近く、須賀神社境内に立つクスノキの巨樹である。主幹は台風によって折れているが、大小8本の幹が森を形成する程に樹勢がよい。幹はグロテスクに歪み、ど迫力の怪物の形相を呈している。地上3m程で大きく分岐し、分岐部上に人が立てる程の空間がある。このような樹形のクスノキも珍しい。



写真 K-009▶  
志布志の大クス

安楽山宮神社の入口、鳥居の近くに立つ。天智天皇  
お手植えのクスノキと伝えられる古木。根元が大きく  
広がり、上部の分岐幹は異様な雰囲気になって、樹齡  
の古さを物語る。内部には神が宿るとされ、お賽銭を  
投げ入れる設備が整っている珍しいクスノキ。(下写真)



◀写真 K-010  
かわご  
川古のクス

幹に彫った観音像があったが、現在は移  
されている。巨木DBの幹周21mで、日本  
三大クスの一つに選ばれているが、幹周値  
は背後の根元が大きく広がっているため  
に出た数字。(下写真)







◀写真 K-011

ひきつくり おおくす  
引作の大樟

2007年に北側の幹が台風で折れ、樹形が随分変化した。小さな社を囲む石垣の下にまで、幹が垂れるように巨大化している。

▼写真 K-012

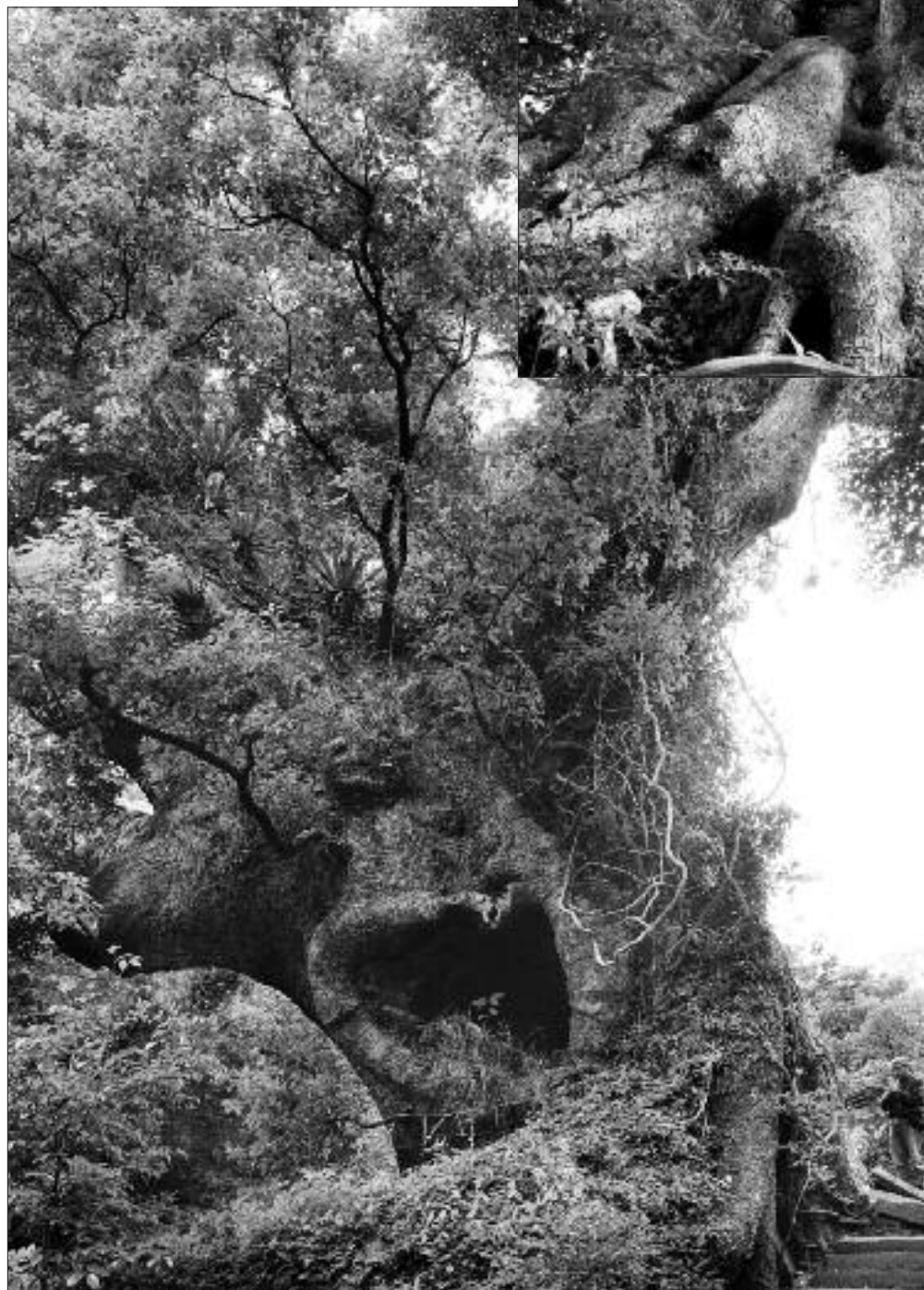
くずみ  
葛見神社の大クス

幹の内部は大空洞で、皮一枚で生き残っている。背後の山から見下ろすとその様子がよくわかる。地上5mまで巨大な岩のような主幹があり、その上で5分岐していた。左奥の幹は分岐部で折れ、中央と右の幹は途中で折れる。右前の大きな幹と、背後の細い幹2本が生き残っている。これが折れないようにバンドで固定されていて、満身創痍の状態。幹には皺やコブが多く、老樹の風格が漂っている。最盛期の雰囲気をもまだ感ずる事ができる貴重な一本である。



写真 K-013▶  
すぎほこわけのみこと  
杉鋒別命神社の大クス

大クスは本殿の裏にあり、根元が大きく広がり、安定感のある単幹樹のクスノキで、美しい樹形をしている。地上7~8mで大きく4分岐し、主幹の一部が空洞化しているが、樹勢は旺盛で、堂々と威厳のある樹形は見事だ。明治頃まで河津地区には河津郷七抱七本楠と呼ばれたクスノキの巨木があったが、現在残っているのはこのクスだけという。(下写真・全景)



◀写真 K-014  
つかさぎ  
塚崎のクス

大塚神社の境内にあり、古墳の上に立っている珍しいクスノキ。幹や枝にはオオタニワタリや様々な植物が着生して、ジャングルを連想させる雰囲気になっている。1993年の台風で上部の幹が折れ、樹高が低くなったが、それでも巨大感溢れる大クスである。



◀写真 K-015

ゆぶた  
湯蓋の森

宇美八幡宮の境内に「衣掛の森」とともにあるクスノキの巨木。幹周相応の迫力がある珍しいクスノキで、幹周は衣掛の森の方が大きい。迫力と樹勢は圧倒的にこちらが勝っている。クスノキの評価の難しいところだ。

▼写真 K-016

ししじま  
志々島の大クス

瀬戸内海に浮かぶ小さな志々島の山中にある。根元近くから巨大な幹が水平に出る樹形は、クスノキでは大変珍しいもの。

巨木DBの幹周は14.0mで、これは水平幹を合計したものか?。主幹の根元を測定したM12.0m(上部0.2m 2012)が、実感される大きさ。

(写真・Web画像)





◀写真 K-017  
寂心じやくしんさんの楠くす

枝張りの見事なクスノキで、四方に60mにも及び、一本で森を形成している。根元に墓石を抱込み、鹿子木親貝入道寂心の墓で、名前はこれに由来する。(下写真・全景)



写真 K-018▶

清武きよたけの大クス

船引神社境内に立つ。地上5mで二分岐する樹形で、主幹内部は広さ5畳程の空洞になっている。



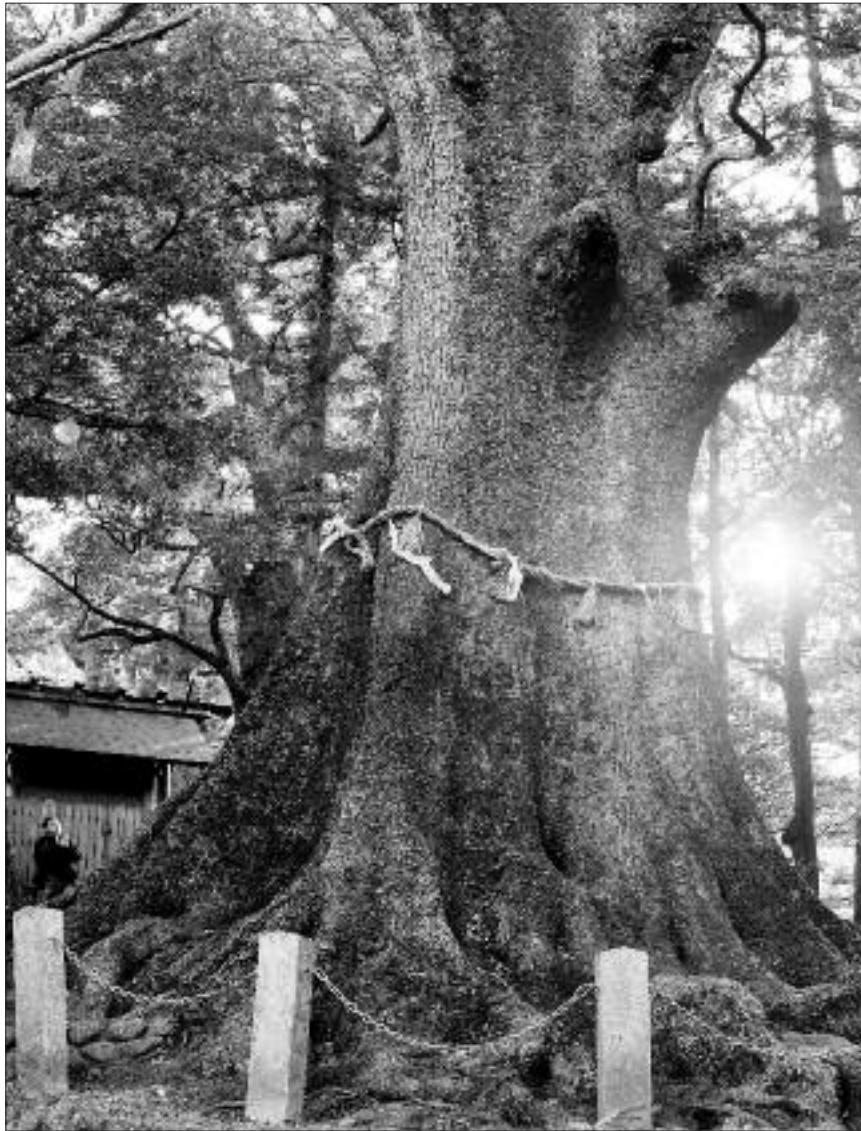


写真 K-019

みずや  
水屋の大楠

水屋神社の本殿の真後ろに立つ。神社の御神木で、地元では「大楠さん」と呼ばれている。

▼写真 K-020

かも  
加茂の大クス

枝張りは東西48m 南北38mの巨大な樹冠を持つ見事なクスノキ。日本五大クスを選定するなら、三大クスの他、主幹の見事さと、枝張りの見事さを兼ね備える、「加茂の大クス」と「寂心さん楠」であろうか。

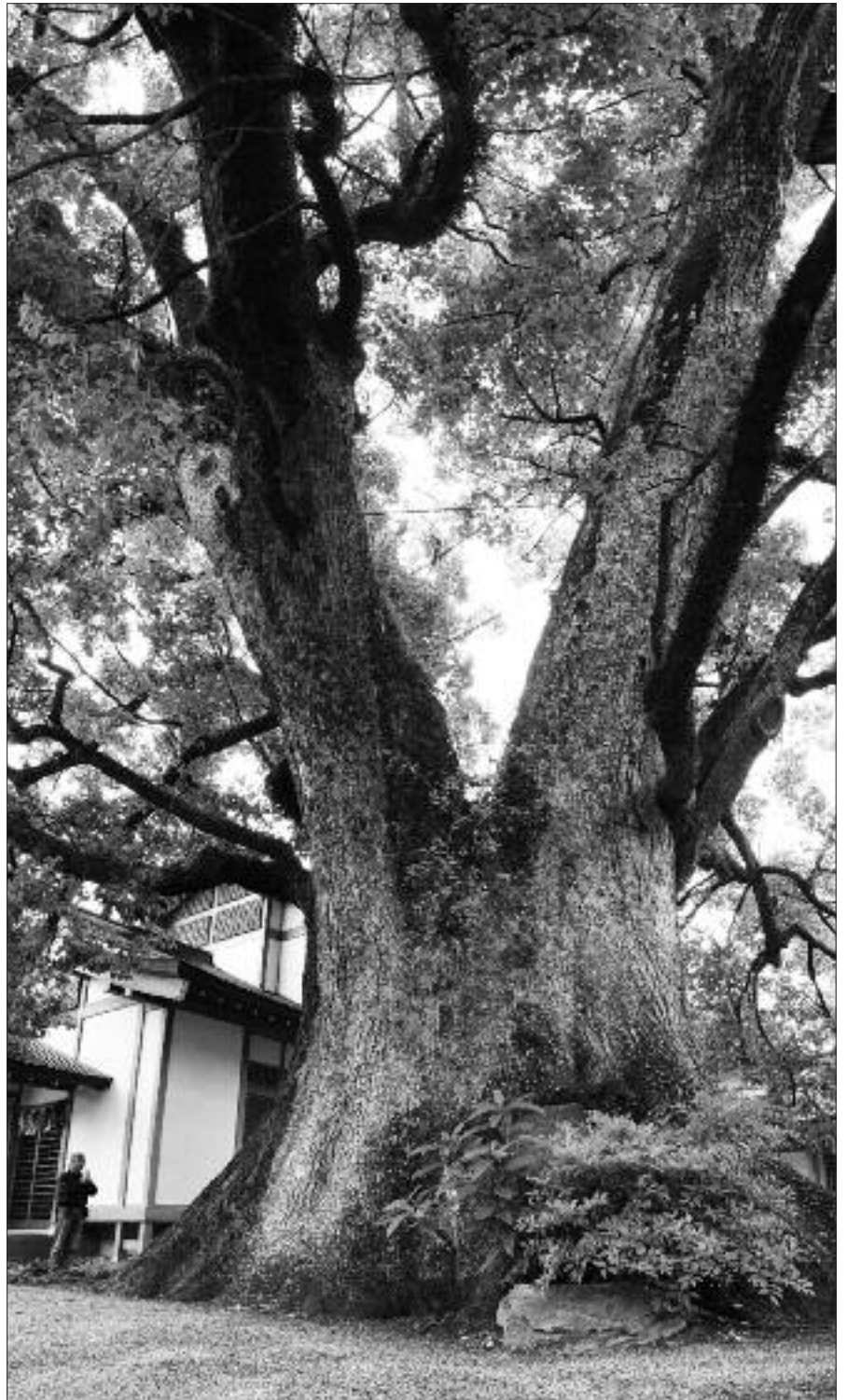




▲写真 K-021

やつおうしゃ  
八王社の樟

代陽小学校の裏手に立つ巨大なクスノキで、現在浅井神社となった旧八王社の小さな社が樹下にある。見事な単幹クスノキで、評価されるべき巨樹である。(写真 Web 画像)



▲写真 K-022

だざいふ おおくす  
太宰府天満宮の大楠

境内にはクスノキの巨木が茂り、その内最大のもの。「大クス」とも呼び、「夫婦クス」や「日本一のチシャノキ」がある。

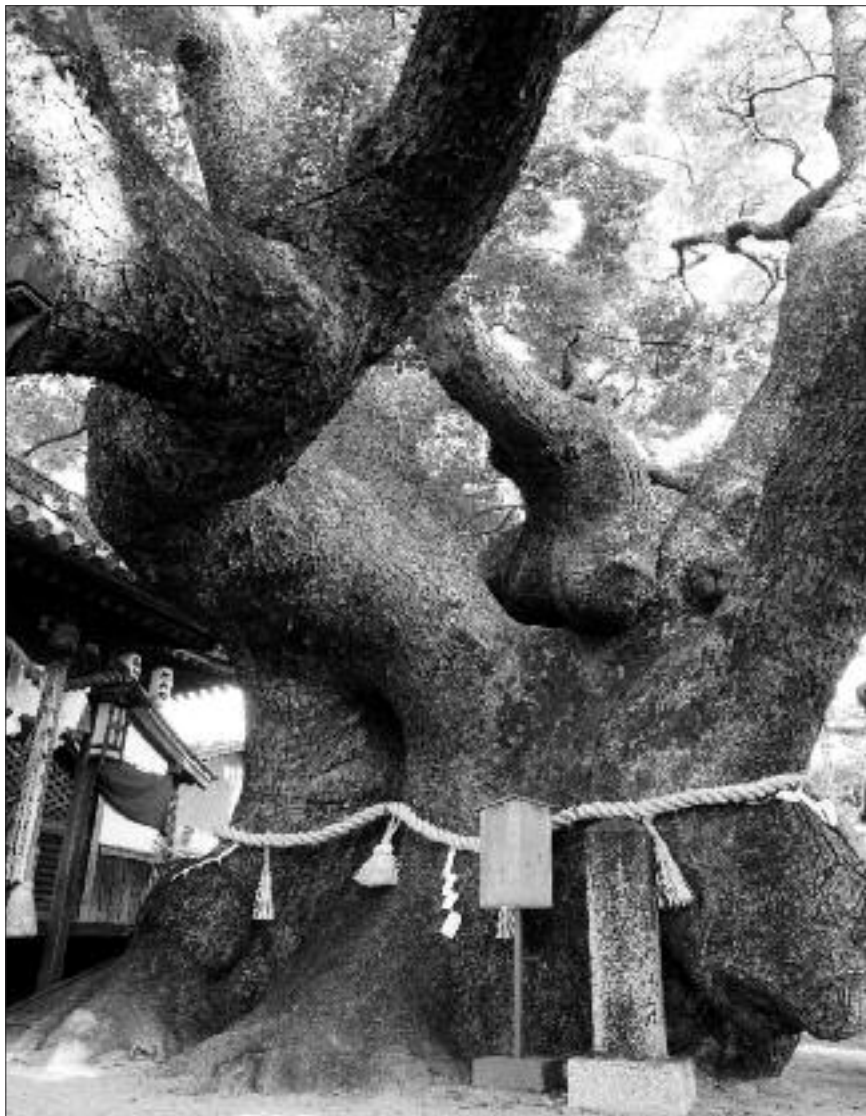


◀写真 K-023

くまもとじょう  
熊本城のクスノキ

熊本城内にはクスノキの巨木が多く、その内の最大株。場所は飯田丸近く。二の丸広場にも大きなクスノキがある。

(写真・石田徹)



◀写真 K-024

くんがいししょう  
薰蓋樟

明治維新に活躍した千草有文が詠んだ「薰蓋樟」と題した歌にちなむクスノキの巨木で、住宅地の中にある三島神社本殿前の狭い空間に立つ。信仰の厚い土地柄で、お参りの人が絶えない。

▼写真 K-025

ぜんつうじごしゃみょうじん  
善通寺五社明神の大クス

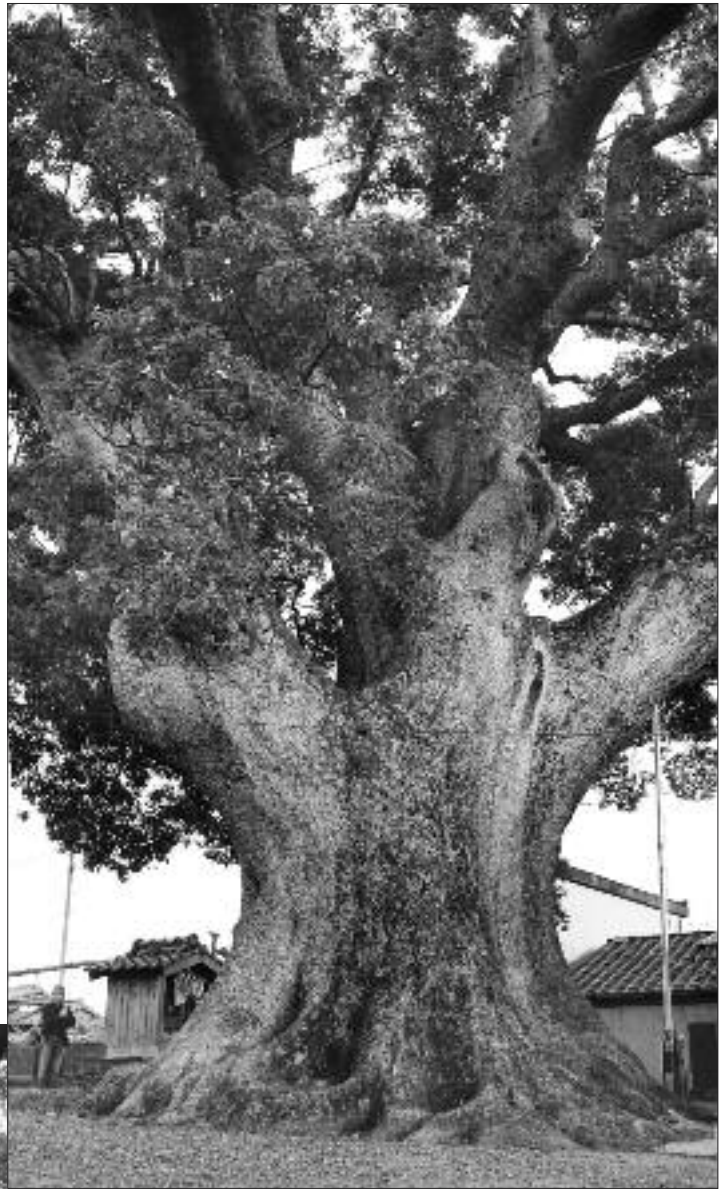
広大な善通寺境内の中央辺り、五社明神の祠が並ぶ頭上に、大きく樹冠を広げる大クスである。地上3~5mで大小6分岐し、水平に枝葉を伸ばし、枝張りは東西27mにも及ぶ見事なクスノキで、主幹の幹周測定部がくびれた珍しいもの。





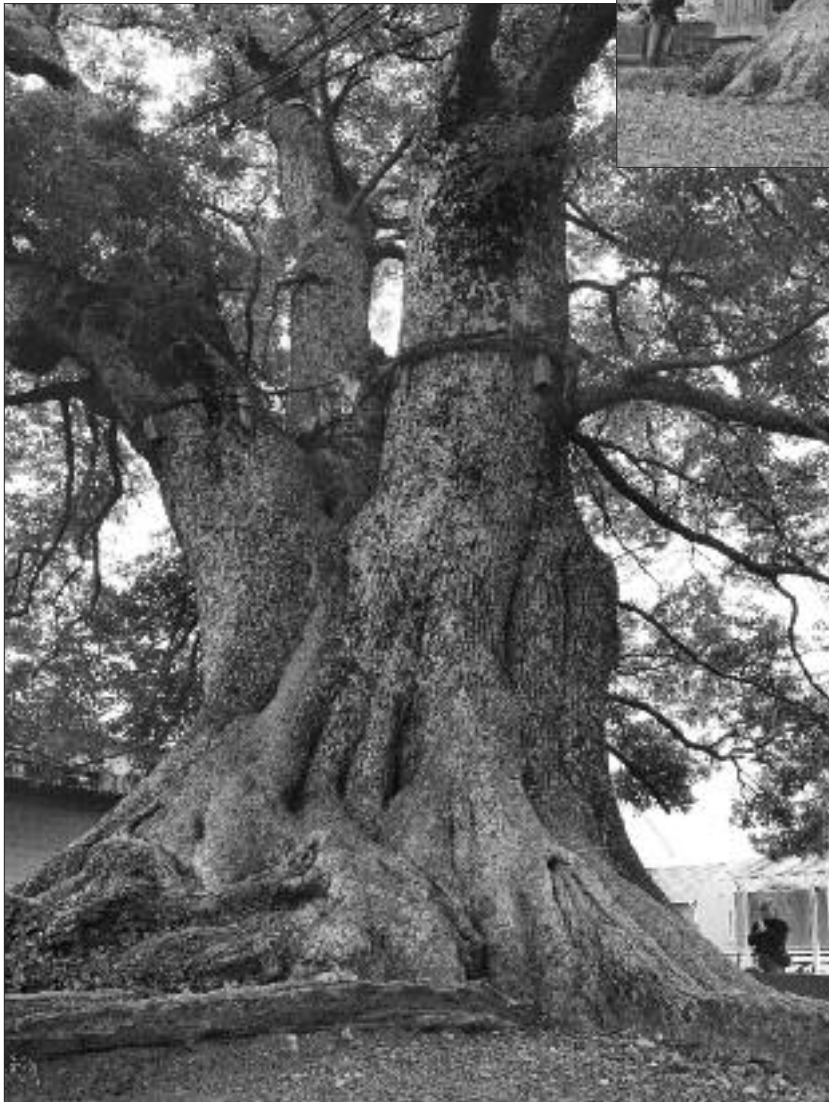
▲写真 K-026  
善通寺の大グス

善通寺南大門近くに立つもので、樹勢は衰え気味である。これも根元広がる樹形で、幹周の数字が大きく出る。しかし、前葺のクスの方が巨大である。



▲写真 K-027  
下古毛の大クス

下古毛集落センターの庭に立つ。一帯はクスノキの巨木密集地帯で、これだけ巨大な巨木が何の指定もされていない。巨木密集地帯でよく見られる現象で、関係者が大きさに慣れ、正当な評価がされないケースであろうか。



◀写真 K-028  
鈍土羅の楠

熊野神社境内に立つクスノキの巨木。地上5mで3分岐する均整のとれた美しい樹形をしている。背後にもう一本幹があったようで、現在は朽ち、空洞には蓋がされている。